

聖光学院校友会報

聖光学院
校友会発行

横浜市中区
滝之上100番地
聖光学院内
☎045 (621) 2051
発行人 小田 治男
印刷所
神奈川新聞社

卒業生の集いは中止 聖光祭は限定公開へ

新型コロナウイルスの流行により、学校教育活動へさまざまな影響があった。なかでも聖光祭は一般の方々の来校を取りやめ、生徒保護者向けの限定公開行事となる9月下旬に実施。そのため、同時に行われていた校友会主催の卒業生修学旅行、中学古都研

念の下、各活動をできる限り実施することが学校としてのつとめであるとしている。このような社会情勢の中で、卒業生の集いは中止に、また評議委員会の開催は書面決議を行い、議案は全て可決承認となりました。詳細は校友会ホームページにも掲載しておりますが、この場を借りてご報告いたします。

校友会総会

今年度の校友会総会については、集合形式での開催は中止し書面決議となり、賛成多数ですべての議案は可決された。



総会資料ならびに決議結果はQRコードを参照

会長就任挨拶

小田 治男

このたび15期の池永秀幸前会長を引き継ぎ、本年度聖光学院校友会会長を仰せつかりました。16期の小田治男と申します。副会長には同期の小田功次君、17期の受川修君にお願いをいたしました。

さてお叱りを受けるかと思存しますが、私は数年前まで、校友会活動には全く関与しておりませんでした。聖光医師同窓会が組織され、そのお手伝いをする流れの中、サッカー部の先輩でもある狩野元会長の時



新会長の16期小田治男氏(右)と工藤校長

新会長に小田 治男氏 (16期) 副会長に土橋功次氏 (16期) 受川 修氏 (17期)

総会書面決議により、2020年度の新会長に小田治男氏(16期)、副会長に土橋功次氏(16期)及び受川修氏(17期)が選任された。

そのほかの役員は下記表のとおり。

2020年度 校友会役員

役職	氏名	期
会長	小田 治男	16
名誉会長	工藤 誠一	11
副会長	土橋 功次	16
副会長	受川 修	17
理事	石川 貴之	17
理事	菊嶋 秀生	20
理事	五十嵐秀典	23
理事	山口 祥治	24
理事	山本 宗男	24
理事	榎田 恭平	27
理事	田中 崇司	28
理事	加賀美博之	31
理事	小島 勇祐	37
監事	原 大蔵	18
監事	大村 貴志	23
顧問	トマス・トランブレ	学院長
事務局長	沖田 耕一	25

Web授業～試行錯誤の中で (学校の現場より)



予想だにできなかった新型コロナウイルスにより、休校状態のまま新学年になり、新学期のスタートを迎えることになってしまいました。生徒達にとっては、友人たちや新しい出会いの中で学校生活を送ることが先延ばしになってしまいました。そうした中であつても、学習の機会はないという思いから、聖光では4月8日から「Web授業」を開始しました。

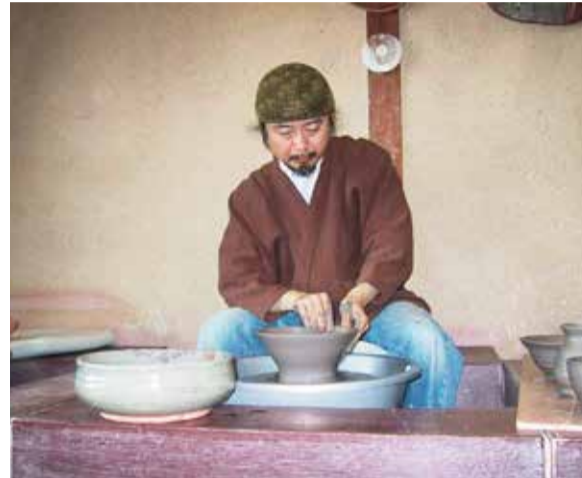
中でのGoogleのシステムに慣れていくこともあり、比較的スムーズに動き出すことができ、動画での授業もかなり早い段階でスタートできました。

から集中力を維持しにくい「短い時間でも、雑談無しに進むのでページがけっこう速い」「途中で友人に聞いたり相談したりしながら勉強できないのがつらい」「やっぱり先生に直接聞けないと、わからないことがたまってしまふ」逆に動画を止めて考えられるのがいい」「音楽を流すなどの工夫をしてもらえてWebで話を聞くのも悪くないと思つた」といった声が寄せられました。

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、今号は2ページによる特別紙面で編成しております。会員のみならずにはご理解をいただきますよう、よろしくお願いたします。

シリーズ第28回 卒業生のお店紹介

新六窯 陶芸家 高橋新六(6期)



いつの間にか七十歳を超えてしまった。当時、太い黒ぶちメガネ(ロイ・オービソン?)をして登校したら「君のメガネ、それは何ですか! ちょっと校長室へ!」とか「髪が長いですね!」とか。カロン校長には、大変かわいがられた。



そのカロン先生も亡くなられた。高一で一年間留年し、五期入学、六期卒業。さらに高三の時は先に卒業していった同期(五期)の仲間とバンド活動。人があまり経験しない事をたくさん経験させてもらった。卒業式は入試のため欠席。

そんな私が同期(五期)の伯父さん経営の沖繩の故郷差焼窯元で、土に触れ、たくさん楽しんで、横浜に戻り、以来、五十年近く土と遊んできた。

当時、一番うれしかったのは、高三の時、数学の授業をとらなくてもよくなった時。そして、皆が恐れていた!

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西4-38-13
☎ & 📠 045-774-6960
e-mail synn-roque@jcom.zaq.ne.jp
京急富岡駅より(徒歩)15分(京急バス)第3公園前下車
JR洋光台駅より(市バス)107番上中里町下車



いた! 幾何の里先生が、教室でいつも赤点の私をなぜか気にかけてくださり、横浜高島屋での初個展で拙作を買ってくださいました。まだ、酒が飲める。プルースを聴きながら土と遊べる。一番、楽しい。



卒業生で参加した陶芸教室



卒業生のお店紹介という事なので、ちょっとだけ。現在は、富岡の山の上で、毎日、富士が、東京湾が見える高台で「新六窯」という陶芸教室を開いています。

2020年度 大学入試結果より

57期生は、ハード面・ソフト面ともに、本校が大きいリニューアルしてからの最初の学年でした。ハード面においては、新校舎が竣工してからの最初の学年でもあり、ソフト面においては、生徒一人一人に対するメールアドレスやChimebook配布等の取り組み、そしてオンライン英会話や海外研修プログラム等が整いつつあった中で、中高6年間を過ごした最初の学年でもあります。さらに、特筆すべきは帰国生の取り出し授業が初めて実施された学年でもあります。帰国生の取り出し授業とは、帰国生入試を突破した生徒を中心に、英語の授業において、他の生徒とは別枠の、そして独自のカリキュラムによって、少人数・高いレベルで展開する授業のことです。その生徒たちの中から、本校初となるハード面大学合格者や、高校時代の研究実績を評価されて大学からの奨学金付きでの大学(コロンビア大学)合格者を出すなど、海外大学受験において、例年を大きく上回る成果を収めることができました。彼らは中学生の頃から海外大学進学を志し、校内での活動(学校行事等)についても非常に積極的に活動する一方で、校外においても国内外のコンテストや活動、そして研究分野において多くの受賞歴を有するなど、今までの聖光生にあまり見られないタイプの生徒であったように思います。本校校長が申し上げますと

この、「生徒を学校に縛り付けない」。すなわち、校内のみならず、学外においても積極的に活躍の場を求めてゆく、次世代の聖光生を体現したタイプの生徒たちであったともいえるでしょう。一方、57期生全体の受験結果を振り返ってみますと、国立大学のみならず、医学部においても多数の合格者を輩出することができました。以下、57期生の中の多くが、どのように現役合格を実現していったのかを中心に、列記してゆきたいと思えます。

現役合格を実現するためには、確かに、高2〜3年といった受験学年に至るまでの学習習慣の有無やその段階における基礎学力に拠る部分も少なくはありません。その点のみならず、教室での

過去5年間主要大学合格者数(現役+既卒生)

	2020年度 57期生	2019年度 56期生	2018年度 55期生	2017年度 54期生	2016年度 53期生
国立大					
東京大	62	93	72	69	71
一橋大	13	15	10	14	18
東工大	5	11	8	13	13
国公立大医	37	26	35	27	21
国公立大合計	160	185	148	155	149
私立大					
早稲田大	191	209	172	138	140
慶應義塾大	144	143	121	130	127
私立大合計	601	606	496	500	427

2020年度 海外大学

Harvard University	University of California
Yale University	Wesleyan University
The University of Pennsylvania	Georgetown University
Princeton University	Grinnell College
Columbia University	Middlebury College
Brown University	Williams College
Johns Hopkins University	Amherst College
Duke University	

て、非常に素直で、私たちの教員による教科・進路指導に対しても、熱心に耳を傾けてくれる生徒が多かった気がします。私たち教員と交わしたりすることもまた日常的な光景であったように思います。いうまでもなく、国立二次試験の多くの設問は、記述式にて出題されます。そこでは生半可な解答テクニックなど、ほとんど通用しません。記述式の下には、その受験生が、当日までにどれだけ妥協せず、思考訓練を積み上げてきたか、それが白日の下にさらされてしまうのです。授業の予習・復習、そして学習の重要性はいうまでもありませんが、本校の生徒は、教員や友人たちとの活発な議論を通じて、決して小手先ではない、本物の学力を身に付けてゆくのですね。

編集後記

今回の校友会報は以下の広報委員会を中心に作成いたしました。

委員長 伏見靖 (20期)
委員 五十嵐秀典(23期)
沖田耕一 (25期)
榎田恭平 (27期)
加賀美博之(31期)
小島勇祐 (37期)
佐藤裕之 (42期)
花家徹 (43期)
狩野靖夫 (14期)
高橋英一郎(14期)

顧問 例年4ページで構成される校友会報ですが、今号はコロナウイルス感染症の影響により2ページだけの影響により2ページだけの影響

今号は編集会議もすべてリモート会議で行わざるを得ず、記事集めも難航するのではないかと思われまじ。しかし、編集委員の日程からの活動のおかげで、例年どおりの4ページにしたいと掲載しきれないほど、卒業生の方から記事を書いていただきました。今回記事を書いた皆さんの残念ながら掲載できなかったものは来年の次号に掲載予定ですのでぜひ楽しみにお待ちください。

(加賀美博之 31期)

もし同窓生とわかっていたら、いろんな話ができたのに...
昨年57期生が卒業をし、今や1万人を超える聖光卒業生が社会に出て、聖なる光で世を照らし始めている。でも、ほとんどの卒業生はお互い同窓生だと気づかない。

もし、同窓生とわかっていたら、もっといろんな話が最初からできたのに...
何気ない日常で、同窓生同士がさりげなくつながる。

このピンバッジがそんな役に立てればと思いき、1期生の卒業生が発起人となり企画しました。

デザインは、卒業生でデザイナーの菱木啓之さん(25期)によるものです。

「世を照らせ」をテーマに「トーチ」をモチーフにしました。校章へのオマージュとして用いた伸張した六角形の中に3つのパートが積み重なったトーチで「教育理念」を2つの交差点によって「建学の精神」を表現しています。ゴールドとブルーはスクールカラーをそのまま用いています。

聖光学院の受付にての対面販売となります。
税込1,000円となります。

